

みえライフイノベーション総合特区

研究開発支援拠点「みえライフイノベーション推進センター(MieLIP)」の設置・活用
(平成25～29年度実施)

特区の主な目標

画期的な医薬品や医療機器、認知症ケアを見据えた生活支援機器などの福祉機器、高機能食品など、ヘルスケア分野の製品・サービスを創出するとともに、企業や研究機関の立地、県内への研究開発資金の投入、雇用の拡大等によって、県内経済の活性化を生み出し、ライフイノベーションに寄与する地域になることをめざす。

事業イメージ

企業等の製品開発を支援する研究開発支援拠点「みえライフイノベーション推進センター(MieLIP)」を県内7箇所に設置するとともに、各拠点が主体となって地域の企業等の様々な製品・サービスの創出を支援する。

MieLIPセントラル(実施主体:三重大学)

各MieLIP
の取組を
支援

MieLIP鈴鹿(実施主体:鈴鹿医療科学大学)

MieLIP津(実施主体:三重県工業研究所)

MieLIP伊賀(実施主体:三重大学伊賀研究拠点・伊賀市立上野総合市民病院)

MieLIP多気(実施主体:多気町役場)

MieLIP鳥羽(実施主体:鳥羽市役所)

MieLIP尾鷲(実施主体:尾鷲市役所)

地域の企業
等の取組を
支援

ヘルスケア分野の
製品・
サービスを創出

特区における効果

特区計画の数値目標に「MieLIPを活用して製品化されたヘルスケア分野の製品・サービス数」「ヘルスケア分野の製品・サービスの創出に伴う新市場開拓規模・新規雇用創出数」「ヘルスケア分野企業及び研究機関の立地件数」を掲げ、MieLIPの各拠点が主体となって地域の企業等の様々な製品・サービスの開発支援を継続してきた結果、企業等が上市した製品・サービス数、ヘルスケア分野企業等の立地件数が年々増加するなど、ヘルスケア分野の製品・サービスの創出、企業の立地につながった。